

全国学力・学習状況 調査結果

実施日	令和4年4月19日
調査学年	第6学年59名
調査内容	国語 算数 理科 児童質問

1 調査結果概要（国語）

国語 学習指導要領に示されている「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選。

	平均正答数	平均正答率
本校	8.2 / 14	61.7%
東京都	9.6 / 14	69.0%
全国	9.2 / 14	65.6%

正答率が高かった問題

1 調査結果概要（国語）

大問1の小問四

条件を満たしながら、立場や意図を明確にして、自分の考えを述べる。

正答率

54.2%

（国＋6.5P）

文章の意図を捉えて、自分の立場を明確にすることで、考えを述べることができた。

叙述を基に、事実と感想、意見について、中心となる語や文を手掛かりに考える指導を行ってきた成果。さらに、条件を付けて考えを述べさせてきた成果。

正答率が高かった問題

1 調査結果概要（国語）

大問2の小問一（2）
登場人物の相互関係や
心情などについて、描
写を基に捉える。

正答率

69.5%
（国-1.1P）

物語文を読み、登場人物の相互関係について、描写に
着目しながら読み進めることができた。

叙述や文章を基に、文章全体の構成や描写を捉えさせ、相互関係や心情について考える指導を行ってきた成果。

正答率が低かった問題

1 調査結果概要（国語）

大問3 小問二

文章に対する「よさ」を見つけ、見つけたよさについて考えを書き表す。

正答率 27.1%
(国 - 10.6P)
無解答率 22.0%
(国 - 7.5P)

書き表されている文章のよさを捉え、そのよさについて自分の考えを述べることが十分でない。

文章を読み、その文章の構成や展開がどのような点が明確なのか捉えさせ、さらにそこから自分の考えを述べさせる指導を行っていく。

正答率が低かった問題

1 調査結果概要（国語）

大問3小問三（ア～ウ）

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことができる。

正答率

国平均－10P

無解答率

22～30%

既習の漢字の定着がされておらず、正しく読んだり書いたりすることが課題である。

文章の中で使われている漢字を正しく読んだり書いたりする習慣を付ける。タブレット端末だけでなく、ノートへ実際に書くことで定着を図る。

本校の実態と課題

目的や意図に応じて、中心となる語や文を見付けて文章を読む力は身に付けることができてきた。

文章全体の構成や登場人物の関係について、その目的や意図を明確に捉えて自分の考えを述べることに課題がある。

指導改善のポイント

文章を読む時に、中心となる語や文を見付け、主述の関係を確かめながら、叙述に即して読む授業を展開する。

文章全体の構成を把握し、段落同士の関係や登場人物の心情や描写についての的確に捉えさせる授業を展開する。さらに、文章の「よさ」など明確な視点をもてるよう展開する。

2 調査結果概要（算数）

算数 学習指導要領における「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題。

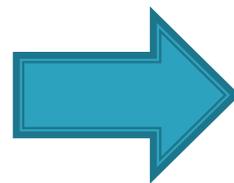
	平均正答数	平均正答率
本校	9.6 / 16	60.0%
東京都	10.7 / 16	67.0%
全国	10.1 / 16	63.2%

正答率が高かった問題

2 調査結果概要（算数）

大問2の小問一

百分率で表わされた割合を分数で表すことができる。



84.7%
(国+13.6P)

百分率を用いた表し方を理解し、百分率を分数に変換することができている。

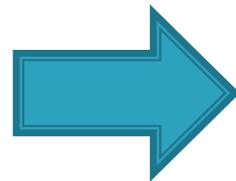
習熟度学習を繰り返し実施し、基礎的事項の徹底を図る指導を行ってきた成果。

正答率が高かった問題

2 調査結果概要（算数）

大問4の小問二

長方形の意味や性質、
構成の仕方について理
解している。



83.1%
(国 - 0.1P)

図形の性質を理解し、図形を構成する要素
を活用して作図することができている。

図形領域に課題があることを認識し、意図的に作図
など操作活動を取り入れて学習を展開してきた成果。

正答率が低かった問題

2 調査結果概要（算数）

大問3の小問三

目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。

44.1%
(国 - 22.7P)

円グラフや棒グラフの特徴を理解し、必要な情報を取り出すことに課題がある。

円グラフや棒グラフを読み取る際、複数のグラフから目的に応じたグラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるよう指導する。

正答率が低かった問題

2 調査結果概要（算数）

大問4の小問一

正三角形を正しくかくためには、角の大きさに着目して順序よく作図することがわかる。

30.5%

（国 -18.8P）

無回答率 10.2%

（国 +6.4P）

図形の意味や性質をもとに、角の大きさに着目して回転させるなど、柔軟に表現したり、図形の考察をしたりすることが課題。

図形の構成を理解させた上で、角の大きさや向きなどに着目させ、順序とともに柔軟な考え方を身に付けさせる指導を行う。

本校の実態と課題

基礎的な事項の定着が図られてきており、獲得した知識を活用して問題を解決することができている。

一つの事柄から複数に組み合わせた事柄へ獲得した知識を活用し、説明する力が課題である。プログラミング的思考を培うことが必要である。

指導改善のポイント

算数的操作活動を取り入れたり、数直線や図表を活用したり、答えを導くまでの過程を十分に行った授業を展開する。

一つの事柄だけでなく、獲得した知識を生かし、複数の事柄を関連付けて考える授業を展開する。

3 調査結果概要（理科）

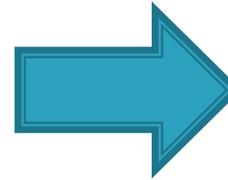
理科 基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。基本的な知識・技能を活用することができるかどうかみる問題。

	平均正答数	平均正答率
本校	10.1 / 17	60.0%
東京都	11.1 / 17	65.0%
全国	10.8 / 17	63.3%

3 調査結果概要（理科）

正答率が高かった問題

メスシリンダーという器具の名称を理解している。

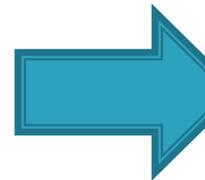


正答率

84.7%

（国+16.9P）

メスシリンダーの正しい扱いを身に付けている。



正答率

81.4%

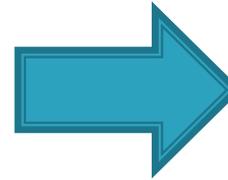
（国+11.4P）

実験器具や用具の名称、使い方を正しく理解することができている。知識を身に付けさせるためには、実際に器具や用具を活用して実験・観察に臨んでいる成果である。

3 調査結果概要（理科）

正答率が高かった問題

追加された実験方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができるか。

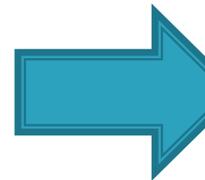


正答率

71.2%

(国+2.3P)

必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想することができるか。



正答率

89.8%

(国-3.1P)

観察・実験の方法を理解し、問題解決の見通しをもつことができている。日常の授業において、問題を解決するために、見通しをもたせて観察・実験に臨ませている成果。

3 調査結果概要（理科）

正答率が低かった問題

日光は直進することを理解し、正しい実験方法を選ぶことができるか。



正答率 22.0%
(国 - 5.8P)

天気と気温の関係を観察した結果から考察できることは何かを選ぶことができるか。



正答率 39.0%
(都 - 6.5P)

観察・実験結果から、その根拠や意味について考察することが十分でなく、結果のみでとどまってしまっていることに課題が見られる。

指導改善のポイント

観察や実験の結果を基に、「事実（条件と結果）」と「解釈（結果から考えられること）」を整理し、説明する場面を設定する。

基本的な知識・理解を身に付けさせる。

4 児童質問紙の結果

朝食を毎日食べていますか

%

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

本校

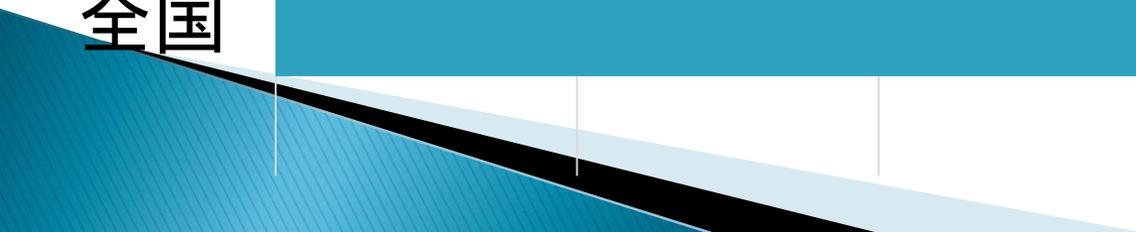
86.4

東京都

85.8

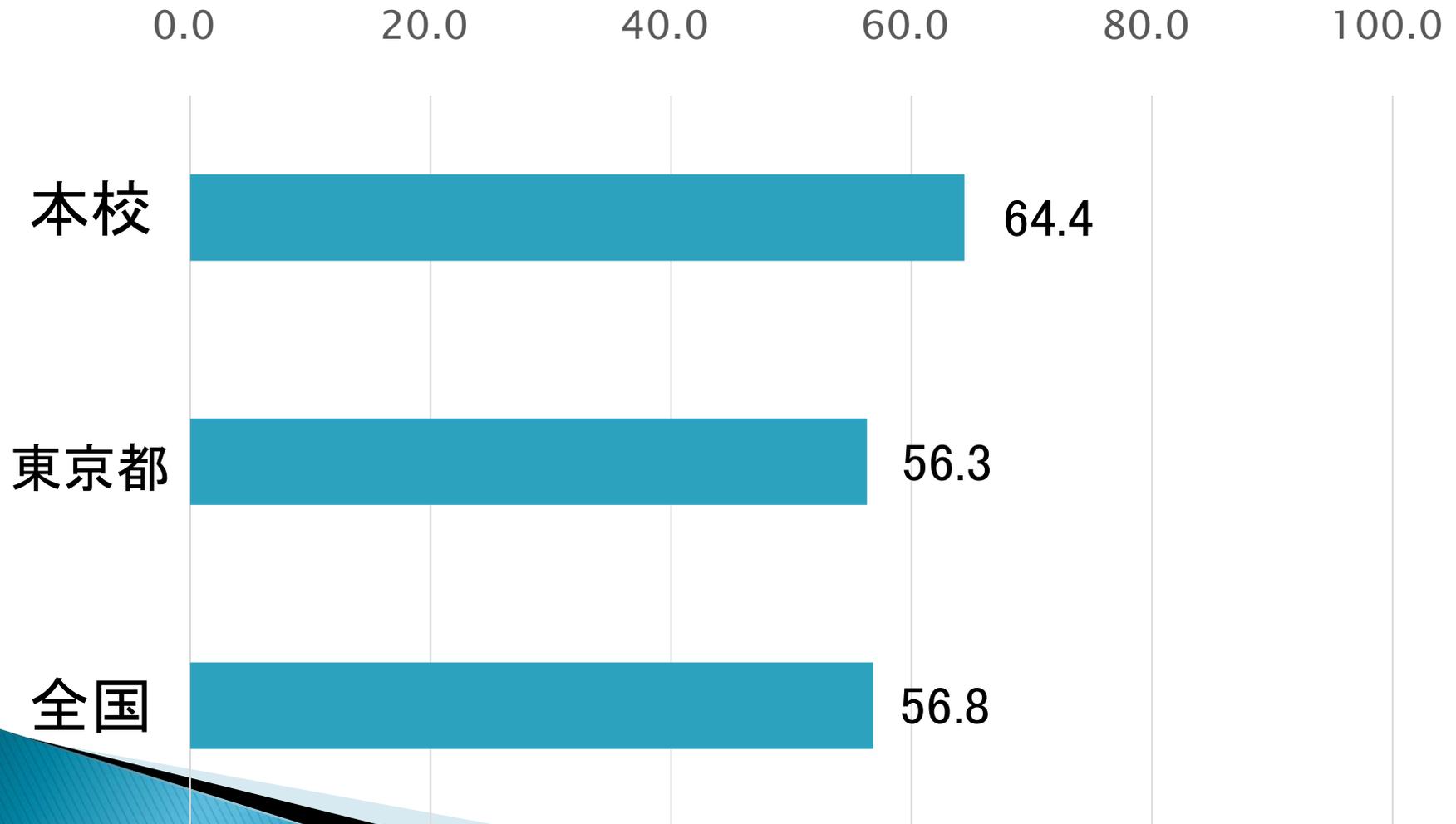
全国

84.9



4 児童質問紙の結果

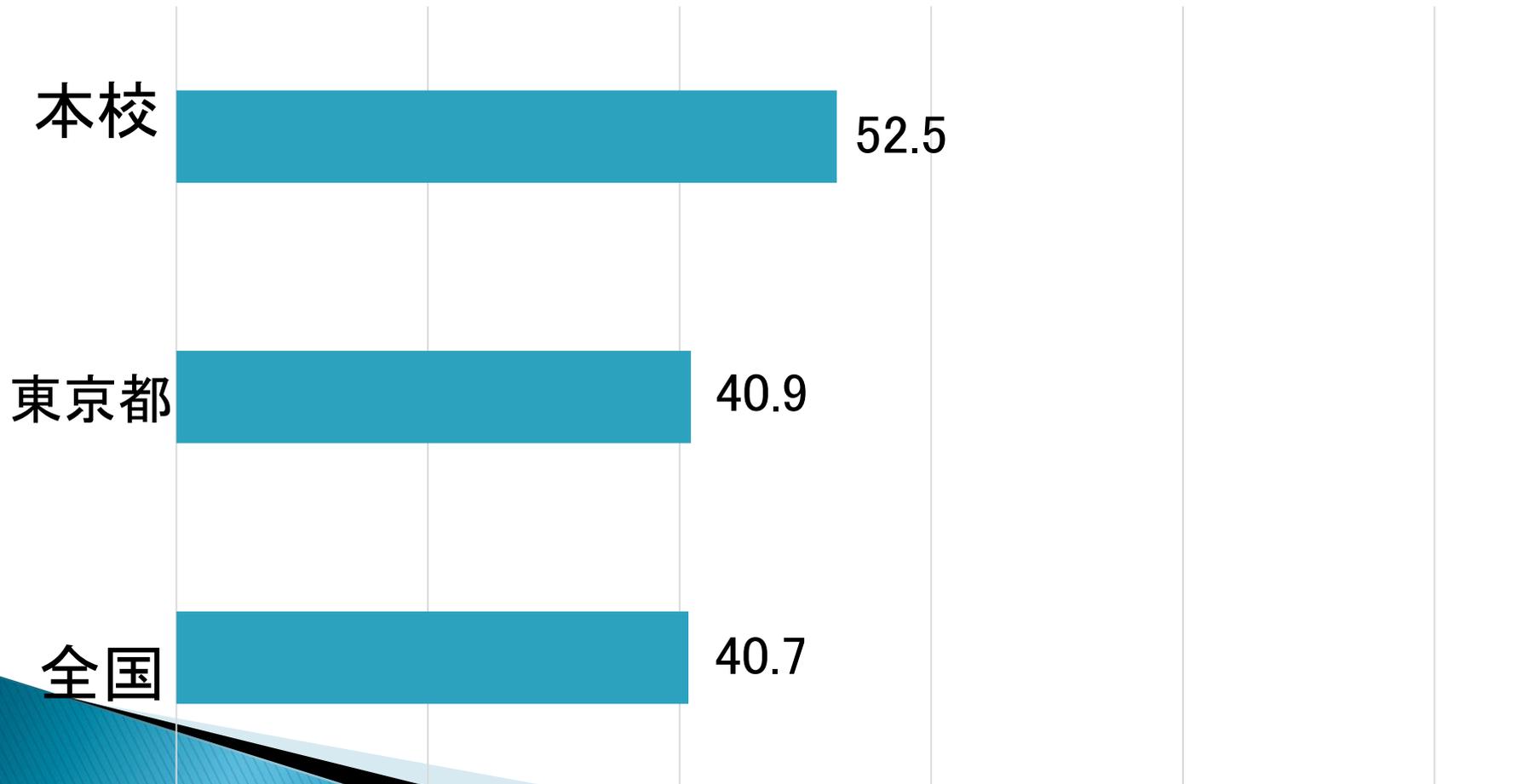
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか %



4 児童質問紙の結果

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか %

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0



本校の実態と課題

4 児童質問紙の結果

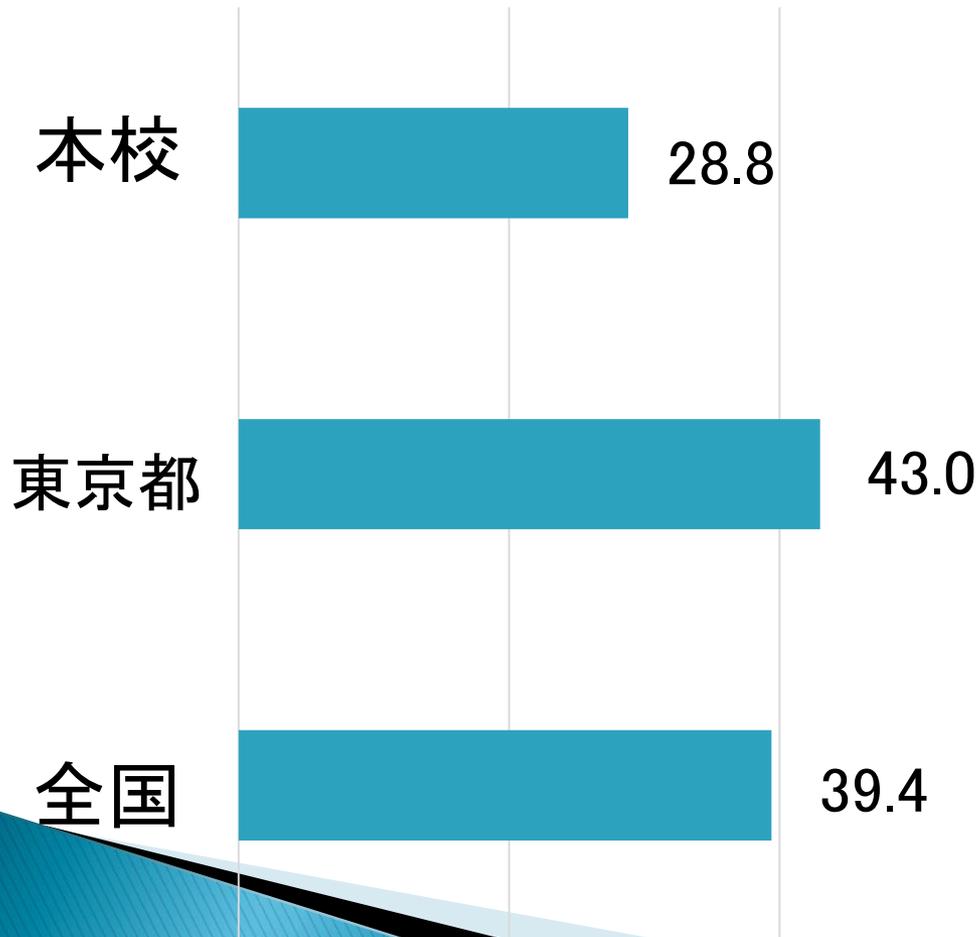
国や都と比較して数値は高い。昨年度よりも数値が上昇している。今後も学校と家庭が継続した取組が必要。

生活リズムの向上は
学力向上に影響がある

4 児童質問紙の結果

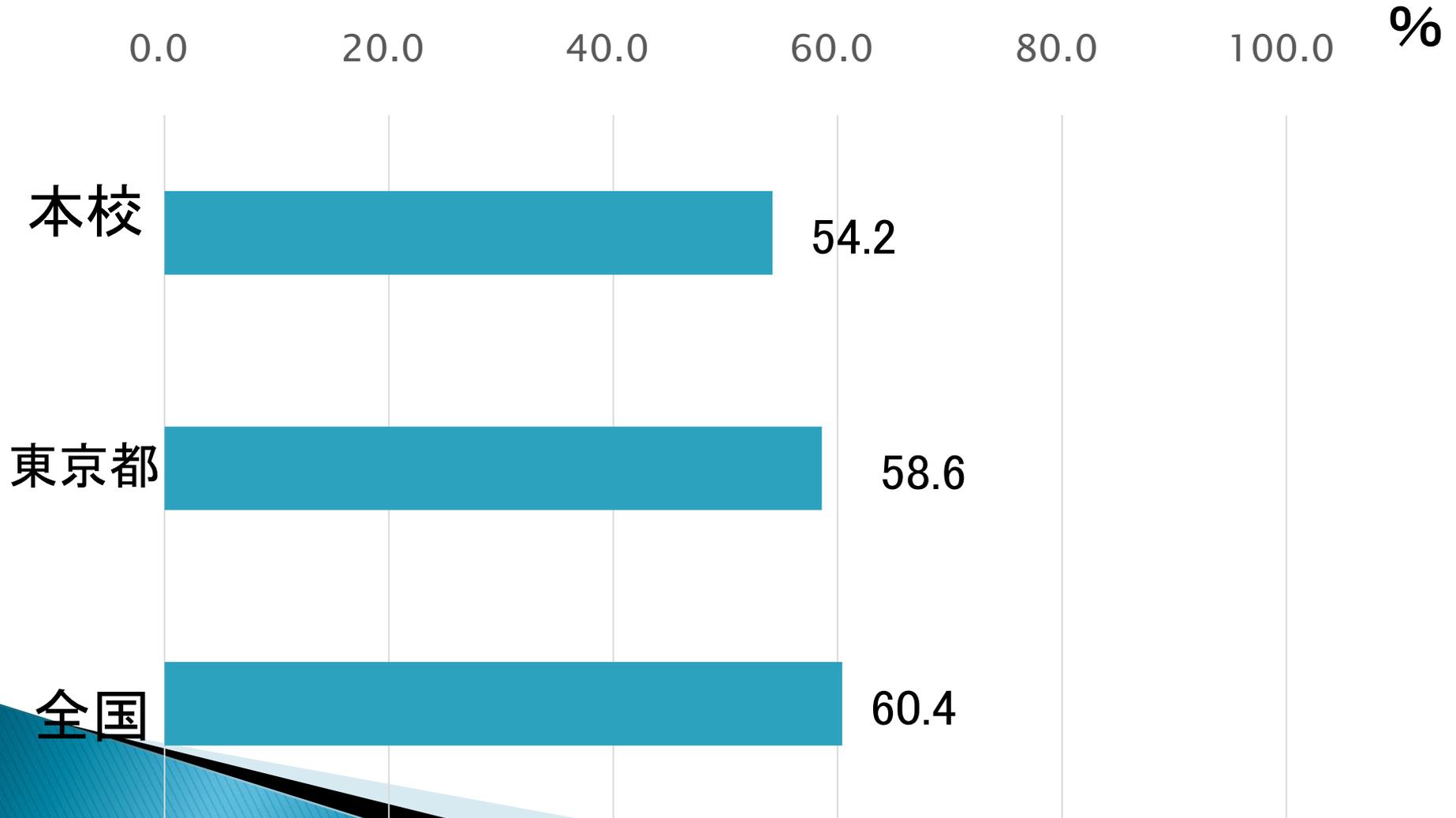
自分にはよいところがあると思いますか

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 %



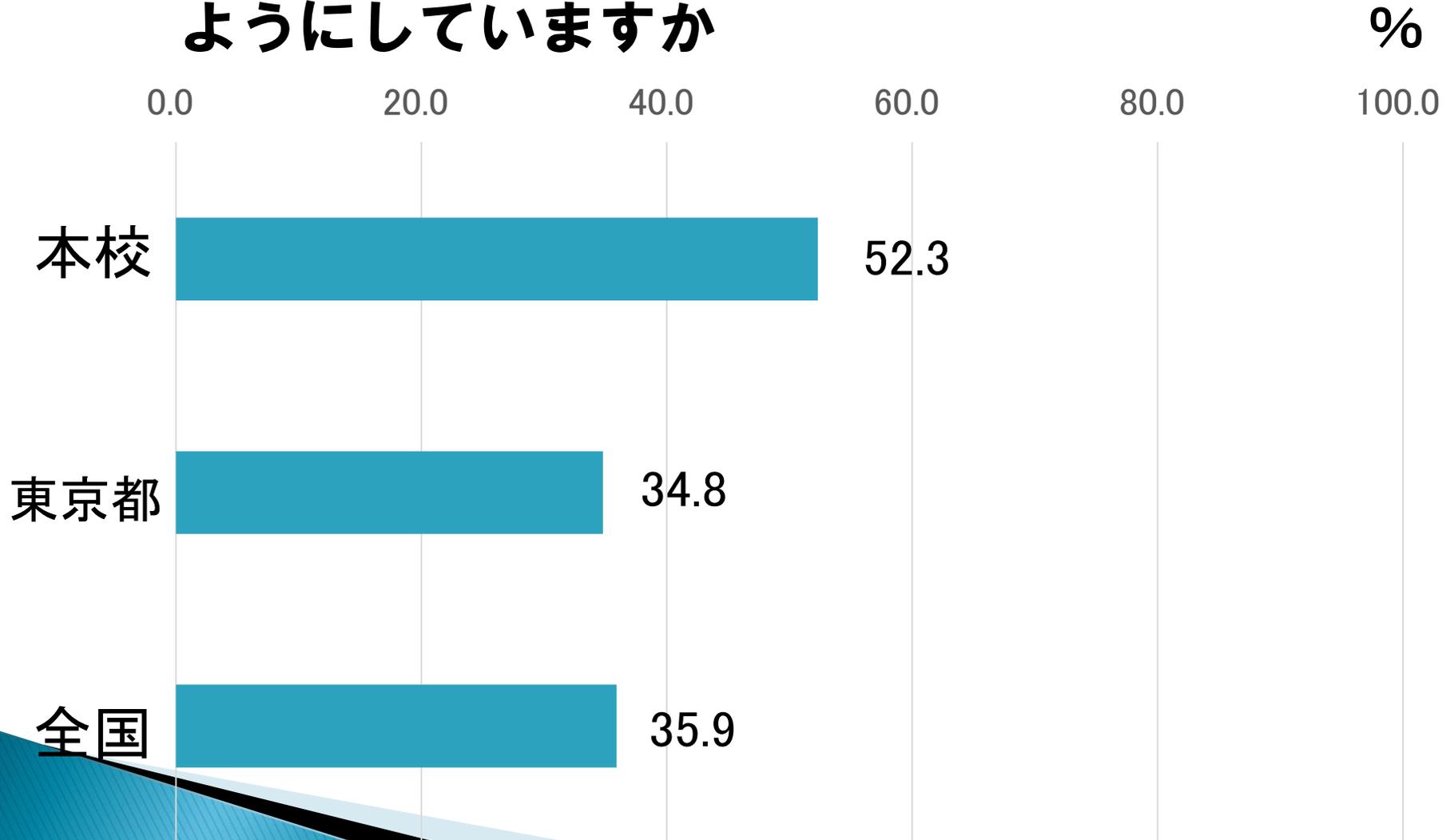
4 児童質問紙の結果

将来に夢や目標をもっていますか



4 児童質問紙の結果

自分でやると決めたことは、やり遂げる
ようにしていますか



本校の実態と課題

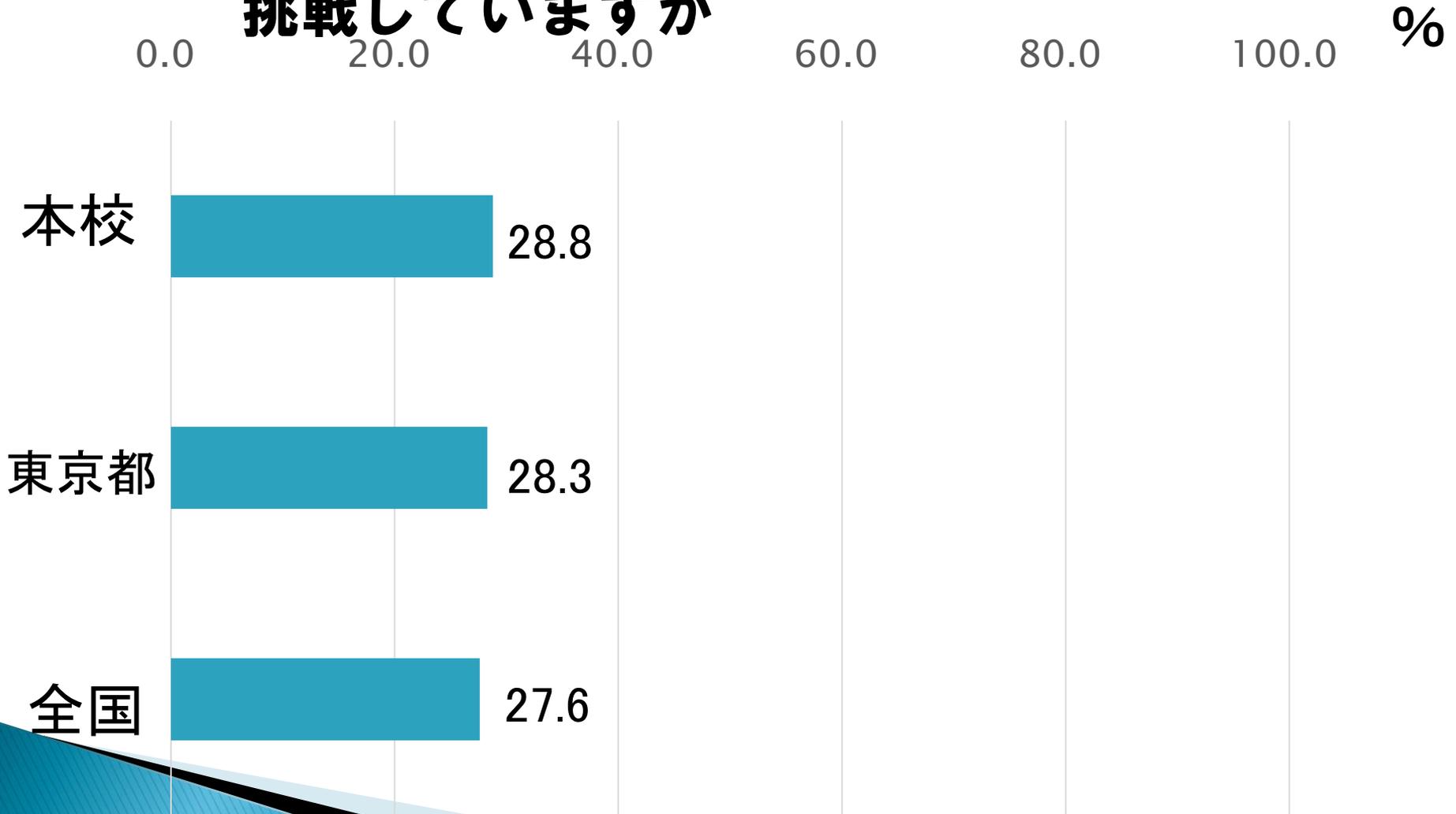
4 児童質問紙の結果

国や都と比較して数値が低い。昨年度よりも数値が低下している。子供たちの自尊感情を高める必要を取り組んでいかなければならない。

自分に対する自信、夢や希望をもたせる手だて

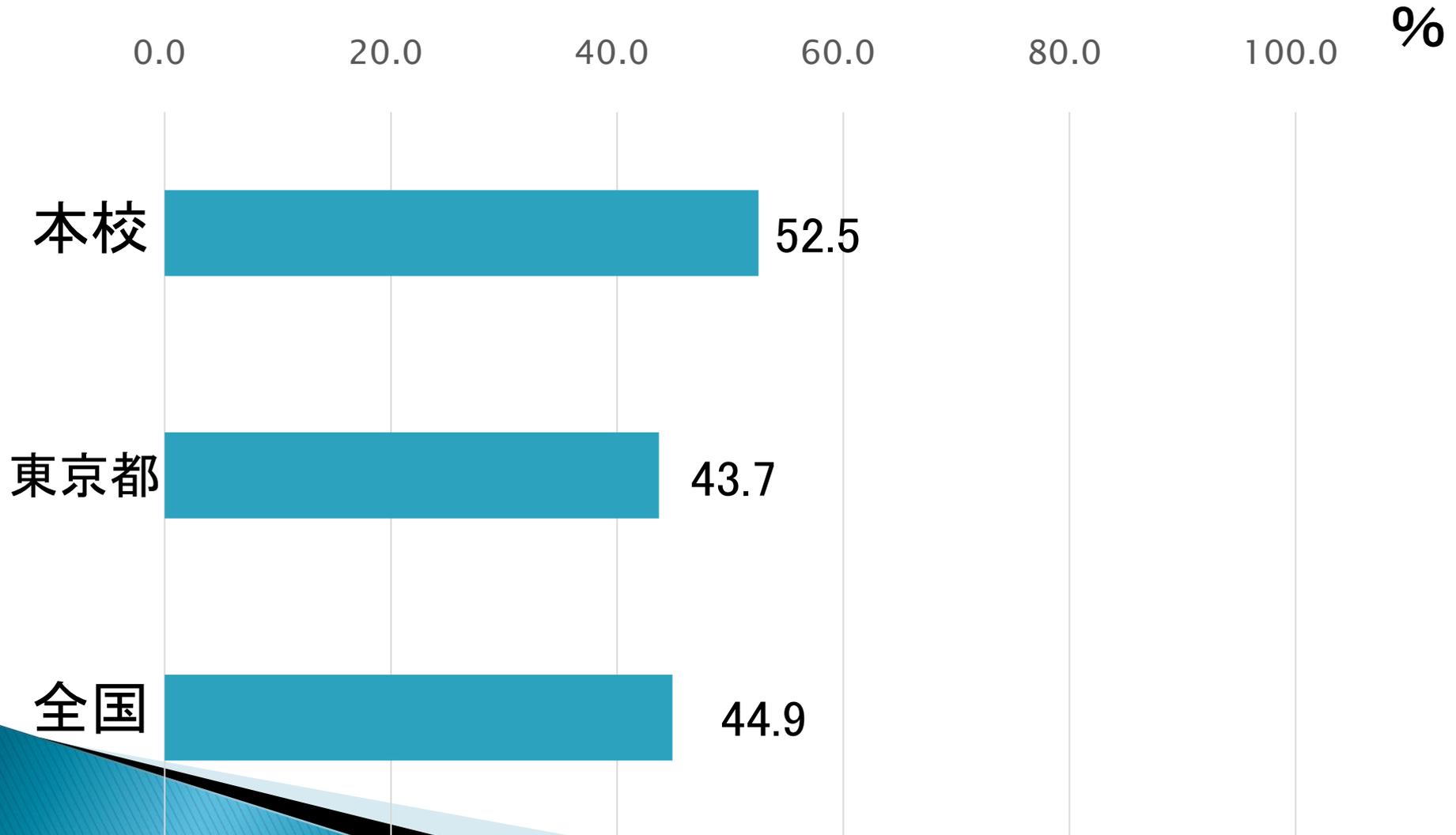
4 児童質問紙の結果

難しいことでも、失敗を恐れなくて
挑戦していますか



4 児童質問紙の結果

人が困っているときは、すすんで助けていますか



4 児童質問紙の結果

人の役に立つ人間になりたいと思いますか

%

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

本校

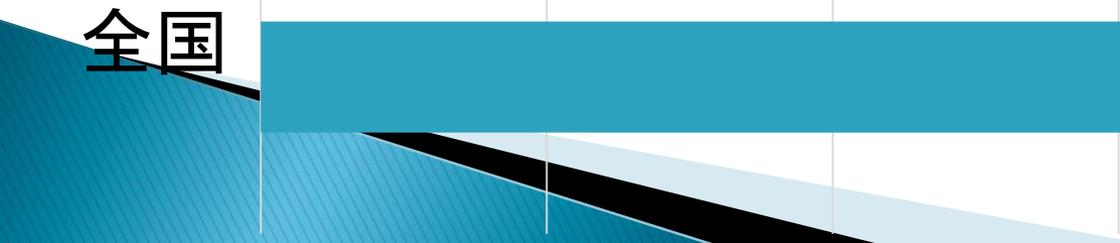
74.6

東京都

73.2

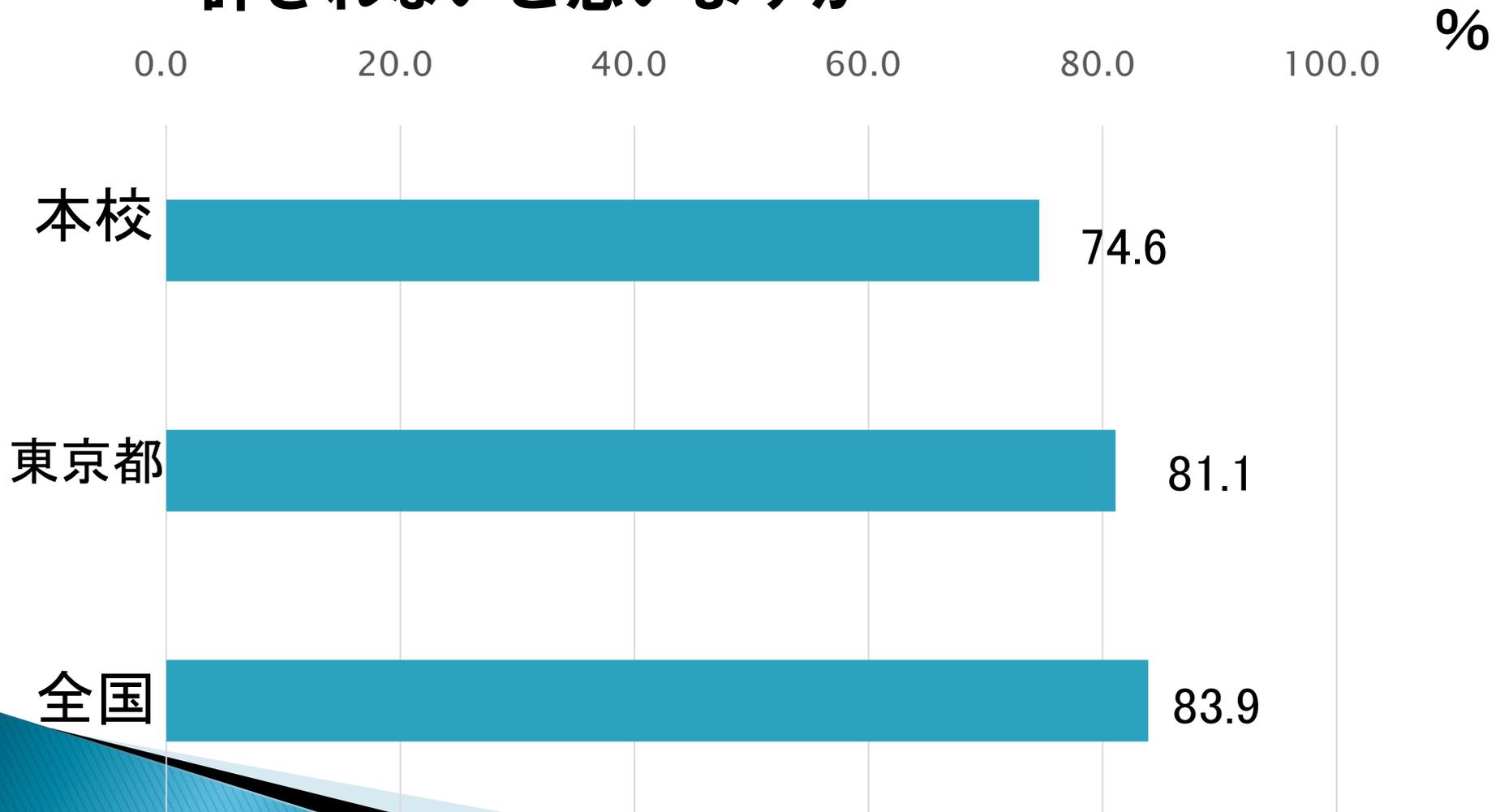
全国

75.1



4 児童質問紙の結果

いじめは、どんな理由があっても
許されないと考えますか



本校の実態と課題

4 児童質問紙の結果

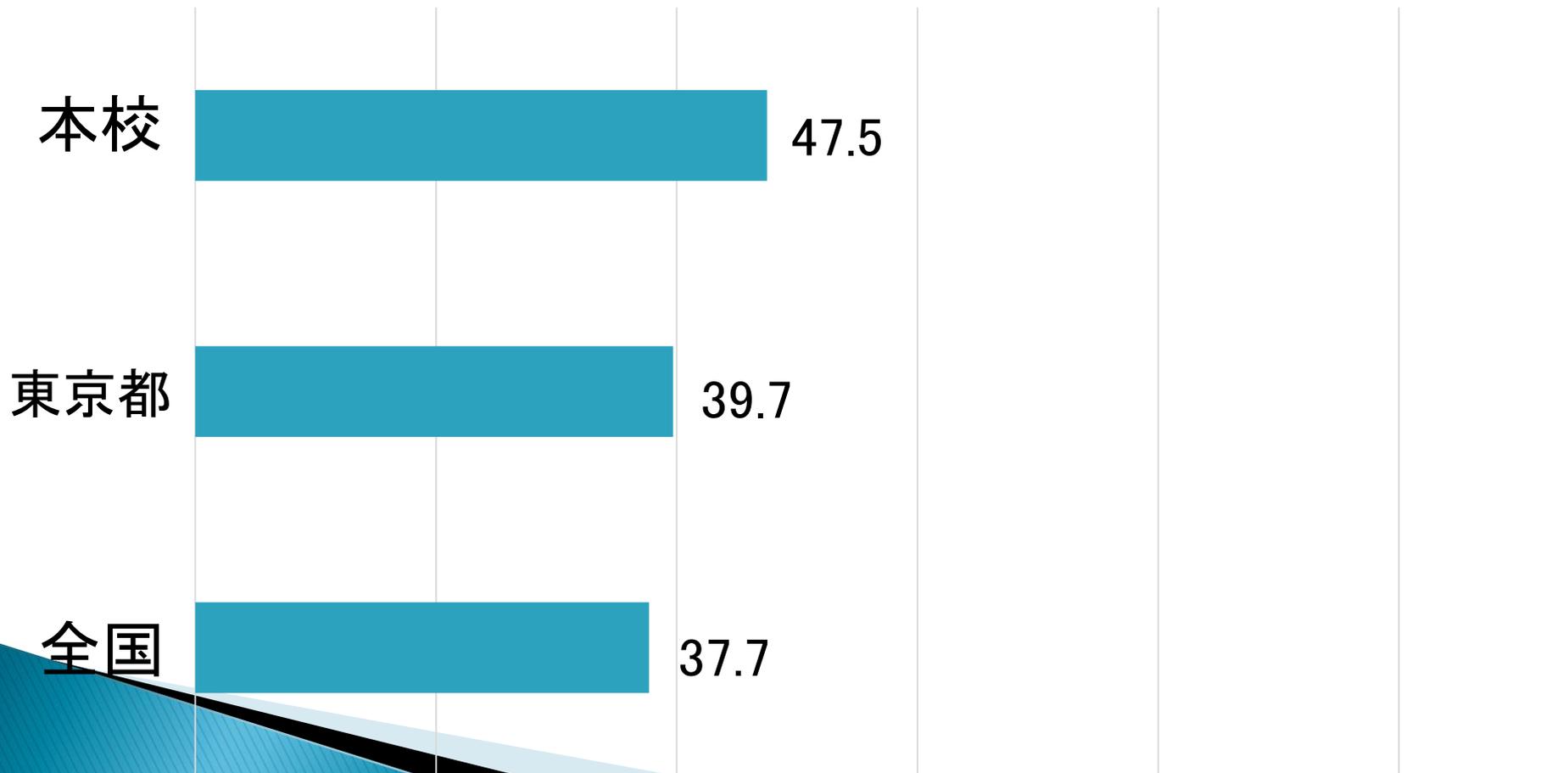
自己肯定感を育むことが必要。現在のコロナ禍において、前を向くことの大切さ、人の気持ちを考える心が弱くなっている。

自己肯定感を高めること
他者の気持ちを考えること

4 児童質問紙の結果

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

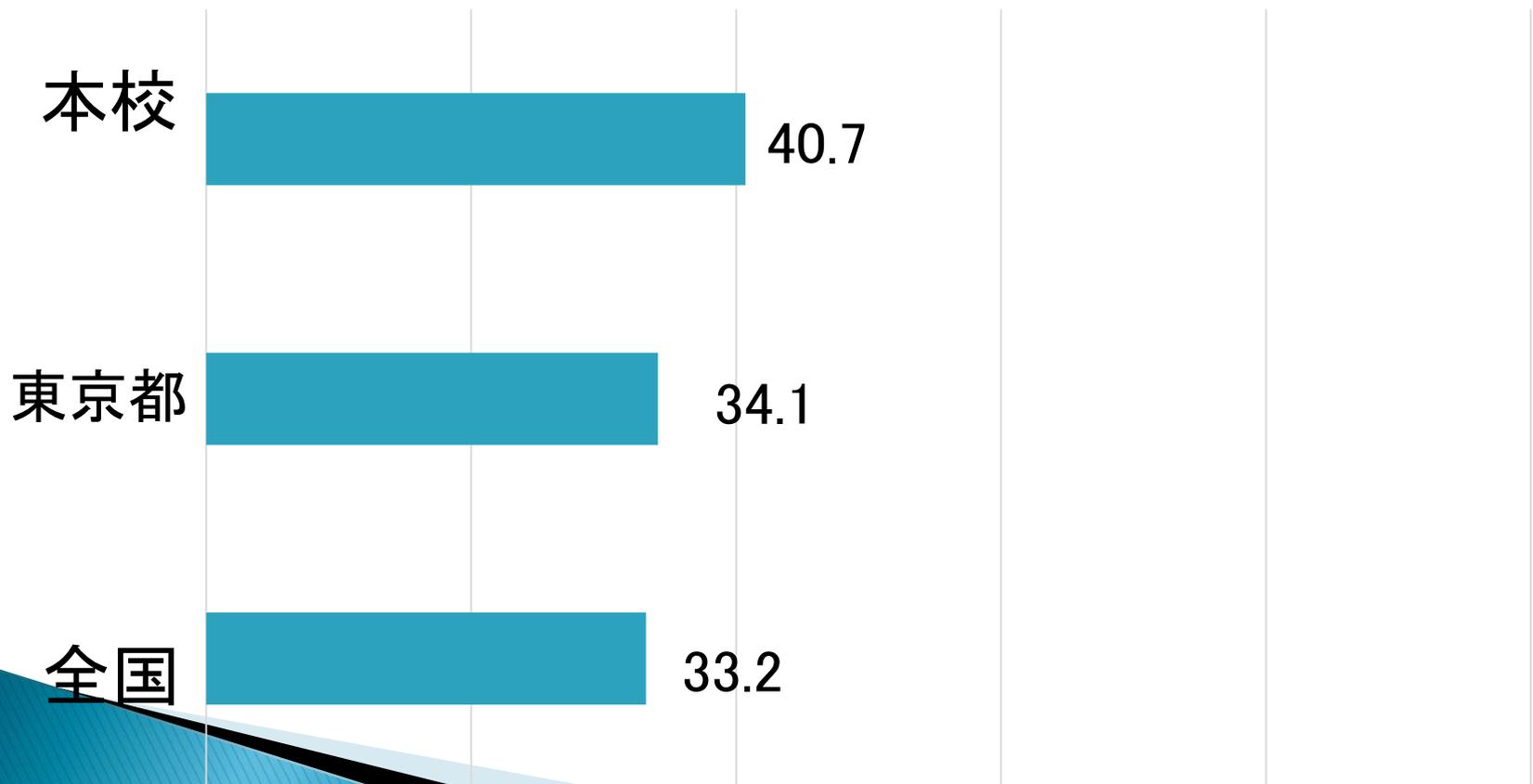
0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 %



4 児童質問紙の結果

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか %

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0



本校の実態と課題

4 児童質問紙の結果

学習に向かう姿勢はできている。
学習の仕方を身に付けさせ、「できた、わかった」を実感させることで自信をもたせたい。



学習スタイルの確立
自己の学びを認識できる手だて